



## (一社) 栃木県建設業協会関係 叙勲受章者



令和2年春の叙勲で、元当協会常任理事日光支部長の相良芳隆氏（相良建設株式会社代表取締役会長）が「旭日小綬章」を受章されました。

相良氏は、昭和16年秋田県に生まれ、岩手大学農学部林学科卒業後、林野庁勤務を経て、昭和42年に相良建設(株)に入社、常務取締役、専務取締役を経て、平成元年に相良建設(株)代表取締役社長に就任、平成29年9月からは代表取締役会長に就任し現在まで社業の発展に努めてこられました。当協会におきましては平成10年に社団法人栃木県建設業協会日光支部長に就任され、青年の会を設立し厳しい経営環境にも的確に対応していける若手後継者の育成に尽力されました。一方、氏は地域産業の振興のため日光商工会議所でもご活躍され、平成18年から副会頭、平成28年には会頭に就任され地域経済発展に貢献されました。今回の受章は長年にわたり産業振興に尽くされた功績によるものです。



令和2年秋の叙勲で、前当協会副会長玉木茂氏（那須土木株式会社代表取締役社長）が「旭日小綬章」を受章されました。

玉木氏は、昭和25年大田原市に生まれ、慶応義塾大学経済学部卒業後、(株)鈴木組に入社し勤務しながら工学院大学専門学校建築研究科を卒業し昭和52年那須土木(株)に入社され、専務取締役を経て昭和57年代表取締役社長に就任し社業の発展と建設業界の振興に努めておられます。当協会においては平成14年に社団法人栃木県建設業協会那須支部長に就任され、平成20年からは当協会副会長も歴任されました。一方、氏は地域産業の振興のため大田原商工会議所でもご活躍され、平成10年に副会頭、平成19年から会頭に就任され、併せて平成21年には栃木県商工会議所連合会副会長も務めていらっしゃいます。

今回の受章は長年にわたり産業振興に尽くされた功績によるものです。

## 未来の建設技術者のために ～宇都宮工業高校で出前講座開催～

【宇都宮支部】



▲熱意をもって受講する高校生

宇都宮建設業青年の会（入江誠会長）は栃木県測量設計業協会（堀江育夫会長）と共催で、3月2、3日の両日栃木県立宇都宮工業高校で出前講座を開催した。本事業は現在の建設業界の姿を正しく理解していただくとともに、建設業の技術革新の一端に触れてもらうことで、より魅力的な業界に成長していることを認識していただき、建設業が多くの若者の進路選択の一つに加えていただけるようにと実施したものである。

開講式の中で菅野光宏校長は、「日頃授業で学んでいることと今日学ぶことをリンクさせ、これからの学習や将来の進路選択につなげてもらいたい。」と挨拶。

2年生の生徒約40名が参加し、1日目に建設業の現状と未来についての講習を、2日目にICT建設機械の操作およびドローンの飛行を2班に分かれて順番に体験し、建設業の楽しさを感じてもらった。ICT建設機械を操作して実際に土で宇都宮工業高校の校章模型を作成したり、本格的なドローンの操縦をした体験型の講座は特に生徒たちに好評で、目を輝かせて、興味津々で講座を受けていた。



(岩原産業(株) 岩原正樹)



## 家畜伝染病発生時の 緊急連絡体制強化

【鹿沼支部】



▲技術委員会による対策会議

鹿沼支部技術委員会は、芳賀町での高病原性鳥インフルエンザ発生を受け、3月25日に家畜伝染病発生時の緊急連絡作業体制のための会議を行いました。家畜伝染病発生時の対応については近年継続して検討を行っていましたが、実際に発生した芳賀支部の埋却作業の資料等を参考に、会議を開き班体制や緊急連絡網の確認、また大型連休中等で資機材の調達ができなかったことを想定し鹿沼支部員各社の所有資機材や特殊運転手の人数の調査の実施等を話し合いました。しかし、4月に那須塩原市で豚熱（CSF）の感染が確認され、本部技術委員会が那須塩原市の埋却地の視察に行き、現地での説明や現場の状況を見て、想定範囲ではまだまだ準備が足りないことを実感しました。5月11日に技術委員会を開いて本部技術委員から視察の説明と準備不足との指摘を受け、上都賀農業振興事務所の担当者と打合せを行い、家畜農場の情報収集や連絡体制及び作業班体制並びに資機材の調達方法等を再確認しました。5月18日の鹿沼支部通常総会開催時に時間をいただき支部員に家畜伝染病発生時の協力をお願いと対応の流れを説明しました。説明内容は、発生の疑



▲緊急連絡体制・対応表作成

いの第一報が入ってから各支部員への連絡方法やその後の作業に入るまでの流れ、作業時間、作業内容、また現在の鹿沼市内の家畜農場の数や規模等です。それでもまだ十分に体制が整っているとは言えない状況ですが、今後はリース会社との打合せ、現場の作業方法や作業内容、作業員への身体的・精神的な負担への対応を検討し、関連機関、近隣支部と連携を深め、支部員を対象とした講習会等の開催を行い、万が一家畜伝染病が発生した時は、スムーズに対応できるように体制強化に努めて参ります。

(株)半貫建設 半貫昌英

## 令和3年度県建設業協会日光支部及び 日光建設業協同組合通常総会の開催

【日光支部】



▲柴田支部長による冒頭の挨拶

5月14日、栃木県建設業協会日光支部の通常総会が開催された。

令和2年度の通常総会は緊急事態宣言が発令され解除間もないことから、書面決議として開催した。

今年は新型コロナ対策として、全員マスクの着用・座席数の削減・発言者のアクリル板設置及び扉などの開放をして密にならないよう対策を行った。冒頭、柴田支部長は本年度について「安全・安心・快適な暮らしを守る地域の守り手として、関係機関・団体と連携し働き方改革や生産性向上、災害時緊急対応の強化などを進める」と意気込みを示して、組合運営への支援を呼びかけた。また、昨年度と本年度に入会した山久保建設の湯澤重美代表取締役、カネヤ工業の草深雄二代表取締役、霧降高原開発の松本則代表代行を紹介した。また、長年理事を務めていただき昨年度末に勇退した郷昭基氏の功績を称えた。2年ぶりに各社代表による総会が無事開催されたが、例年どおりの総会が開催されることを願いたい。



(斉藤建設(株) 斉藤一明)



## 一般国道408号 真岡南バイパス開通式

【芳賀支部】



▲一般国道408号真岡南バイパス開通式

3月20日に栃木県真岡土木事務所主催で一般国道408号真岡南バイパスの開通式が福田知事をはじめ、国会議員、市長、県議会議員、用地協力者、施工業者など約100名が参加し、安全祈願やテープカット、くす玉開披など盛大に開催されました。

主催者を代表して福田知事から「早期に開通できたのも、用地を提供していただいた地元関係者の協力のおかげ」など謝意を示しながら「常総・宇都宮東部連絡道路の一部を構成し、本県を代表する鬼怒川左岸の産業活動を支え、真岡市内での慢性的な交通渋滞緩和に効果が大きい」など整備効果を交え挨拶いただきました。

一般国道408号真岡南バイパスは、暫定2車線で真岡市寺内地内の国道294号から長田地内の県道真岡上三川線までの3,100mで、引き続き4車線化整備を行い、2025年度の完成を目指します。



なお、開通式当日の通り初めでは地元中村中学校の吹奏楽部が演奏を披露、車両出発の音頭をにのみや尊徳太鼓の皆さんが盛大に盛り上げてくださいました。

(株)阿久津土建 阿久津亮

## 栃木県内に初配備!! 「排水ポンプ車出動式」

【下都賀支部】



▲斎藤和実下都賀支部長による決意表明

5月18日「排水ポンプ車出動式」が、栃木県庁にて執り行われました。

出水期を前に大規模な浸水被害の早期解消を図ることを目的に、栃木県が『排水ポンプ車』3台を初めて導入し「関東・東北豪雨（平成27年）」「東日本台風（令和元年）」で浸水被害が大きかった県南地区の栃木土木事務所（小山詰所）・安足土木事務所（足利・安蘇庁舎）に配備し運用を開始。

ポンプ車は、クボタ製と帝国繊維製。現場での機動性を考慮し総重量8トン以下、中型運転免許で運転可能なサイズであり、排水能力は毎分30立方メートルで、25メートルプールの水量を約20分間で排水することができます。

出動式には、緊急排水作業にあたる業務委託受注者でもある、下都賀、安蘇、足利支部長が隊員とともに出席し、福田富一栃木県知事より『排水作業安全キー』が手渡されました。

3支部を代表し、斎藤和実下都賀支部長より「災害対応の『現場力』、会員相互の『組織力』を最大限に活かし、速やかにポンプ車を出動させ全力を挙げて復旧作業する」旨の決意表明の後、県土整備部職員と支部隊員によるポンプ車の指さし点検を実施。

最後に、田城均県土整備部長の号令で排水ポンプ車が出動しました。

(吉栄工業(株) 吉田 亘)



## 塩谷建設会館 落成式

【塩谷支部】



▲塩谷建設会館落成式 塩谷支部員一同

4月23日、塩谷建設会館落成式典を行いました。

協会塩谷支部員、来賓として協会正副会長や各支部長、同支部の歴代支部長が出席し、新しい歴史の幕開けとなる待望の新会館完成を祝いました。

新会館は敷地面積1,086.39㎡、建築面積177.62㎡（延べ床面積347.80㎡）。

構造は木造2階建てパナソニックテクノストラクチャー工法（耐震等級3、耐風等級2相当）、屋根は平形屋根用スレート葺き。総工費には約9,300万円を費やしました。

2023年の塩谷支部設立100周年を迎える前に新会館が完成し、支部員一同気持ちを新たに支部運営に励んでまいりたいです。

新会館には建替委員のアイデアが随所に盛り込まれており、快適な業務遂行が期待されます。災害時には、防災拠点にもなるので「地域の守り手」としての使命を果たす場所にもなることでしょう。

新会館に注力してきた支部長、建替委員会、無事故で竣工した工事関係者の皆様、感謝申し上げます。



（友建工業(株) 小菅秀樹）

## 私たちの街をきれいに ～愛ロードとちぎ～

【烏山支部】



▲全社参加で街をきれいに

烏山支部では5月15日、本年度第1回目の道路清掃活動を実施しました。支部技術委員を中心として、支部員各社から30名が参加し、主要地方道宇都宮烏山線的那須烏山市中央地区から神長地区までの延長1.8km（両側）を4班編成で清掃しました。

当該箇所は市内中心部への入口であるものの、路線内には神長トンネルもあり、空き缶・ペットボトル・タバコの吸い殻など、多量のゴミが投棄されています。そのようなことから、我々建設業協会烏山支部では毎年数回この路線の愛ロード活動を実施することが恒例となっております。

私たちが生活をする街がきれいになることは、支部として、そして建設業界としても大変うれしいことです。こうした活動が、より多くの方の目に触れ、きれいな環境を保持することを心掛けてもらえればと思います。そして、こうしたことを通じて建設業が地域



に貢献しているという理解も深めていただければ幸いです。



（鈴木建設(株) 鈴木雅仁）



## 排水ポンプ車が 配備される

【安蘇支部】



▲排水ポンプ車運用説明会

5月18日、栃木県庁昭和館前において、県南3支部を所管する土木事務所に配備される排水ポンプ車の出動式が行われた。当日午後、安足土木事務所保全第二部に到着した車両に、機器の稼働を委託される安蘇支部員が運用の安全を祈念してお浄めを執り行った。

5月20日、河川課の職員により排水ポンプ車の運用要項の説明が行われた。午後、秋山川右岸の河川敷に移動し、県職員、他支部からの参加者、安蘇支部員など約40名に、納入業者による操作説明が行われた。参加者は、排水ポンプの設置や排水ホースの接続方法などを熱心に見学した。その後、関係者は浸水被害の発生が予想される才川と渡良瀬川の合流点に移動し、排水ポンプの設置箇所、放流先への排水ホースの配置などの課題や装備品の確認などを行った。

これからも安蘇支部員が一丸となって「地域の守り手」としての使命を十分に果たせるよう、平時より訓練を重ねいく所存である。



▲木村支部長によるお浄め

(朝日建設(株) 蓼沼正人)

## 排水ポンプ車始動式典 開催される

【足利支部】



▲【写真左より】

「金子裕 佐野市長」「木村光伸 安蘇支部長」  
「林 真 安足土木事務所 参事兼所長」  
「蓼沼法彦 足利支部長」「早川尚秀 足利市長」

5月28日、安足土木事務所に配備された排水ポンプ車の始動式が尾名川水門において開催されました。当日は、午前8時30分から、足利支部員及び安蘇支部員約30名で、会場周辺堤防の草刈りや排水ホースのセットなど会場設営を実施しました。

午前11時に式典が始まり、主催者の安足土木事務所林所長の挨拶の後、来賓の早川足利市長、金子佐野市長、県議会議員5名を代表して木村県議会議員からそれぞれで挨拶をいただきました。続いて、来賓紹介の後、安足土木事務所担当者の方から排水ポンプ車の概要説明が行われました。

次に、足利支部蓼沼支部長、安蘇支部木村支部長から排水ポンプ車配備にあたりそれぞれ「決意表明」が行われました。その後、排水ポンプ始動の前に、林所長、蓼沼支部長、木村支部長の3名でお清め酒を排水ポンプ車のタイヤにかけ、今後の安全を祈願しました。いよいよ、安足土木事務所保全第二部の村上次長の号令により、排水ポンプのスイッチがオンされ、円滑に、尾名川から堤防を越え出流川へ排水することができ、無事式典は終了しました。

これからも、足利支部員が一丸となって、市民の生命と財産を守る「地域の守り手」としての使命を果たしていく所存であります。

(三興工業(株) 山根良樹)